

地震の防災 ～高校生にできることはなにか～

3年1組2番 石川友絵
3年3組8番 大西理文
3年3組29番 柘宇梨奈

keyword:「地震」「防災」「避難」「防災グッズ」「南海トラフ」

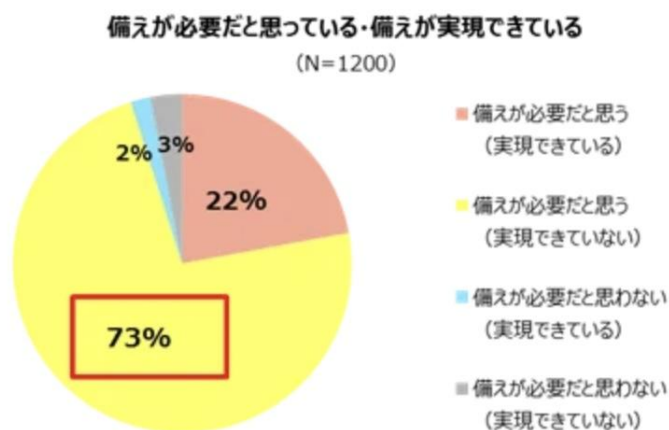
1.はじめに

近年地震が起こる頻度が多くなっている。地震が起きると建物が崩れて、地割れ、土砂崩れ、洪水など多くの災害が起こる。最近のニュースでは「南海トラフ」という言葉をよく耳にする。この地震は想定される最大クラスの巨大地震で静岡県から宮崎県にかけての一部では震度7となる可能性があるほか、それに隣接する周辺の広い地域では震度6強から6弱の強い揺れになると想定されている。また、関東地方から九州地方にかけての太平洋沿岸の広い地域に10mを超える大津波の襲来が予測されている(国土交通省気象庁中央防災会議、2013)。過去の巨大地震では熊本城の瓦が落ちたり、家が流されたりと、ニュースで見た時は衝撃を受けた。そして同じような震度が予測されている南海トラフが30年以内にくると言われている事の重要さを改めて再確認することが出来た。地震を調べて得た知識をたくさんの人に伝えれば身の安全を守れるようになる。事前に知り、対策をしておけば、死者数、怪我人、行方不明者の減少、なにより災害による被害が小さくなることにつながる。このことから地震がどれだけ危険か、対策が必要なのか多くの人に知ってほしいと思うようになった。崩れてしまった家や流されてしまった建物を見て、今の私たち高校生にできることや、知っておかなければならない過去の地震から分かったことなどを私たちの身近な高校生に知って貰いたいと思った。

2.序論

私達は、高校生という若者に向けて地震について深く知ってもらい、防災意識を高めて欲しいと考えた。まずは過去の地震を知ること。阪神・淡路大震災や東日本大震災などで起きた被害を知る。次に地震が起きた時に取る行動や身の回りの防災、避難方法を見直すようにすること。例えば、困ってる人や逃げ遅れた人がいたら私たちが伝えた知識などを使って周りの人を助ける側になることが大切だと思う。私たちから伝え、そこから自分で調べてみるように地震に対して意欲的になって欲しいと考えた。最終的にはもし実際に地震が起こり、建物や家が崩れて道がふさがった時にボランティア等に積極的に参加して地域の支えになって欲しいと考える。情報が途絶えて被災地で混乱してしまった時に「大丈夫ですよ」と言う私たち高校生の声掛けで地域の人を安心させることが出来ると思う。まずはネットや本、被災者の声をYouTubeから地震について調べた。地震が起きた時の状況や被害の大きさ、大地震を経験した被災者が震災後に変った意識、防災の大切さなどが書かれていた。気象、地形、地質など厳しい自然環境下にある日本は、阪神・淡路大震災や東日本大震災、熊本地震などで最大震度7の大きな地震が頻繁に起きている。さらに南海トラフ巨大地震の発生も懸念されていることについても書かれていた。この本では、東日本大震災後の被災者の意識変化「防災意識の高まり」、「節電意識の高まり」、「家族の絆の大切さ」について強く書かれていた(よくわかる最新 都市計画の基本と仕組みより資料を引用)。地震について調べていくうちに私たちの知らなかったことがたくさん見つかった。地震が起きた時は一次災害、二次災害が起こり、急に起こる自然現象だから被災者はその時に戸惑ってしまう(首相官邸ホームページ「地震では、どのような災害が起こるのか」2011)。その時に防災についてよく知っておくと次の行動がわかり、自分の身を守ることができる。これらのことから、ここ

まで対策を進めてきているのになぜ地震だけでなく、災害の被害も大きいのが分かった。日本は地震大国でありながら、地震の対策を十分にできていない人が多い。2014年のアンケートによると資料1のように、地震の備えが必要だと思うと答えた人は約95%いるが、実際に備えをしている人は約20%であった(東京ガス 暮らし情報メディア ウチコトより資料を引用)。過去に大地震が起きるたび、防災対策を呼びかけていたが、危機感がない上に行動に移している人は少ない。このことから、私たちはみんなにより防災を周知させるために全校生徒に向けたアンケート等を利用して探求した。その結果を通して防災センターへ行き、パンフレット作成、防災授業を行った。



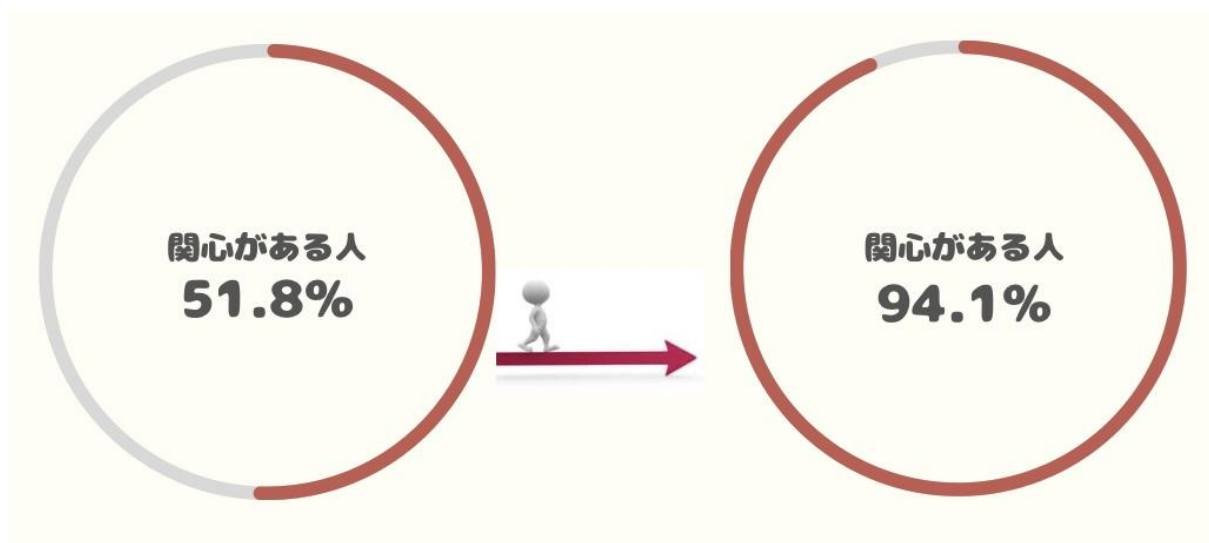
東京ガス都市生活研究所「地震への備えに関する実態と意識」より[2014年12月調査/N=1200]

資料1

3. 本論

今の高校生の地震に対する知識があるのかを調査するために当時の1、2年生を対象に3つのアンケートを実施した。(2022/10/16時点246件)「地震に対して関心がありますか。」この問いに対して、51.8%の人があると答えた。ないと答えた人は4.1%と少なく、地震に対して関心がない人は比較的少ないことが分かった。「防災グッズは家にありますか。」この問いに対して、38%の人があると答えた。ないと答えた人は、26.5%だった。「家族と避難場所を共有していますか。」この問いに対して、44.5%の人がしていると答えた。していないと答えた人は29%だった。計3問の結果より、意欲はあるが、なかなか行動に移せてない人が多いことが分かった。このアンケートを通して、まず私たち自身が地震の知識を正確に増やすべきだと考えたため、大阪にある阿倍野防災センターを訪れた。そこで、大地震が起きた時のシュミレーション映像を見たり、実際に震度7を経験し、改めて地震の怖さを改めて再確認した。体験型のアクティビティだけでなく施設内の壁には地震や防災についての豆知識が沢山書いてあった。地震が起きた時に何をすべきか、災害時に避難する方法などを学んだ。これらを私達だけが防災を知るのではなく、多くの人にも伝えたいと思い、「地震のパンフレット」を作成した。パンフレットには、地震が起きる前、起きている時、起きた後に分けてその度取るべき行動や防災グッズなどを記載した。パンフレットだと自分のペースで読むことができるため、じっくり見てもらえると考えた。また、多くの高校生に地震について関心を持ってもらうという目標を遂行するために、全校生徒に向けて防災授業を行った。授業内では、過去の地震や防災グッズについての説明をした。さらに新聞でスリッパを作ったりと聞くだけではなく全校生徒参加型にしたので多くの人が真剣に取り組んでくれた。授業後に全校生徒に「防災授業で防災の意識は変わったか。」というアンケートを実施した。(2023/5/24時点407

件)その結果、94.1%の人がとても変わった、変わったと回答した。これは、2年生の最初に行ったアンケートの結果と比べて、資料2のように地震について関心があると答えた人が42.3%増えたことを示している。授業を聞いてくれた生徒が関心を持ったことで多くの人が質問項目にたくさんの質問や意見を書いてくれた。「水が必要なことはわかるけれど、数十Lも持っていくのは難しいと思うから、どうしたらいいかわからない。」「家の中にいた方が安全ですか？また、避難場所に行くのはどのくらいの被害が出てからですか？」「防災グッズが重すぎて持てない場合に中身を減らす際、優先的に何を残すべきか。」「奈良は地震による津波の被害が少ないと思うので、それ以外の二次災害(土砂崩れなど)についての情報を知りたい。」などと防災意識が高くなったように見受けられた。このような結果が得られたのは防災授業を行ったからだと考える。私たちが伝えることで地震に危機感を持ち、自ら防災について調べようと積極的に学ぶ姿勢がみられた。これらを経て国内だけでなく、国外の人々にも防災を伝えていきたいと思い、高校生国際会議に参加した。海外はあまり地震が起こらないため対策をしていないという意見が多かった。



資料2

4. 結論

私たちはこれまでの活動を経て地震についての正しい知識が増え、高校生に防災意識を高めて欲しいという最初の目標を達成できた。今回の探究でできなかったことはひとつひとつの大地震にフォーカスして探究できなかったこと、全校生徒を対象にして実際に地震が起きたとき取る行動を実践することができなかったことである。今後は今回の探究でできなかったことを実施し、また高校生だけでなく、幼稚園や小学校など校外で地震の防災を多くの人に伝えていきたいと考える。私たちは今回の探究を通じて、地震の防災について調べるだけでなく、身につけた知識を多くの人に伝えていくことで関心を持ってもらえて、もっと知りたいと思えるようになることが分かったので、人に伝えることの重要性を知ることが出来た。情報が共有されることで防災に取り組む人が増え、多くの命が助かると考える。これまでの探究を今後身近な人にも伝え、地震が起きたときに率先して行動することに活かしていきたい。

5. 参考文献・出典

【図書】

1. 五十畑弘「よくわかる最新 都市計画の基本と仕組み」図解入門,2020

【ウェブサイト】

1. 「南海トラフ地震で想定される震度や津波の高さ」『国土交通省気象庁中央防災会議』
<https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/nteq/assumption.html/>, 参照日: 2013
2. 「地震では、どのような災害が起こるのか」『首相官邸ホームページ』
<https://www.kantei.go.jp/jp/headline/bousai/jishin.html/>, 参照日: 2011
3. 「地震の備えに関する実態と意識」『東京ガス 暮らし情報メディア ウチコト』
<https://tg-uchi.jp/topics/5324/>, 参照日: 2014